

令和6年度 いのちの授業 事例集（高校）【情報・家庭】

掲載数	33
-----	----

管轄	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1 神奈川県	高 3	情報・家庭	命の選択 ～出生前診断・ 赤ちゃんポスト （こうのとりの ゆりかご）～	出生前診断と赤ちゃんポスト（こうのとりのゆりかご）の2つを題材として、命の選択について考える時間を設けた。最初に資料等を示しながら教員から説明し、その後話し合いを行った。生徒は、「選択をする」ことについて戸惑いながらもしっかりと考え、自分の意見を述べていた。	本校家庭科教諭が授業を行った。様々な資料を提示しながら、現状を知る・自分だったらと仮定する・選択するという責任について考える機会を設定した。
2 神奈川県	高 1	情報・家庭	命の始まり	家庭基礎の授業において、命の始まりの単元の学習で、人工妊娠中絶および出生前診断について学んだ。課題として自分が妊婦だったと仮定し、自分なら検査をするかどうかを考えさせた。命について、自分の価値観や人生への考えを深めることができた。 また、妊婦体験を通して、7 k g の妊婦ジャケットを装着し階段の昇降、歩行、着席などを通して、生命を育むことの尊さ、助け合いの大切さ、親への感謝などを身をもって実感することができた。	家庭科教諭が授業を実施。 妊婦体験プリントを作成した。 クラスルームを活用した。
3 神奈川県	高 1	情報・家庭	SNSを安全に使う ために	数年前にSNSでの投稿がきっかけで起こった「座間事件」を授業で取り上げ、グループワークの中で事件が起きた原因・対策・命の守り方を協議させ、安全にSNSを利用するために必要な知識や技能を身に付ける授業を行った。	情報Ⅰ担当教員 独自作成ワークシート
4 神奈川県	高 1	情報・家庭	子どもとかかわ る	生命への責任と青年期の健康	実教出版株式会社 「家庭総合」
5 神奈川県	高 1	情報・家庭	子どもとかかわ る	保育分野で、視聴覚教材を活用し、授業を展開した。DVD「赤ちゃんはこんなにすばらしい」、「生命の誕生2～命を育む～」、動画「気をつけよう日常生活事故・乳幼児編」、「窒息事故から子どもを守る」、「子どもの事故予防」などを視聴した。生徒は、妊娠から誕生まで親としてどのように過ごしたらよいかを学習した。また、映像から誤飲防止、転落防止などの具体例を把握することができた。「生命の誕生」を学ぶことにより、命の大切さを理解し、今後の生活に役立てようという意識付けになった。	一橋出版 教育図書 東京消防庁 消費者庁 葛飾区版
6 神奈川県	高 3	情報・家庭	健康と食生活	・災害時の食事を考える ・糖度実験	教育図書 「フードデザイン」

7 神奈川県	高 2	情報・家庭	・『豊かな食生活の背景には・玉ねぎの皮で染色実習』【10・11・2月】 ・『いろいろな人が着る衣服・これからの衣服』【1月】	・『豊かな食生活の背景には・玉ねぎの皮で染色実習』 10月・11月・2月に継続的に実践。 10月：日本の食料自給率や食品ロスをはじめとした食品の廃棄について資料読み取りを行い、日本を含めた様々な国の1週間の食品のフォトランゲージ演習の後、食生活のSDG sに関するまとめ課題に取り組み、豊かな食生活とその背景について考えを深めた。課題は授業内で生徒間で共有し、食品ロスについては、消費者庁「めざせ！食品ロス・ゼロ川柳コンテスト」の取り組みを紹介し、Googleフォームを活用して川柳を募り、いのちをつなぐ食生活への興味を深めた。この応募では、本校生徒1名が最優秀である内閣府特命担当大臣賞を10代で初めて受賞した。 11月：皮つきサツマイモの蒸しパンと玉ねぎと豚肉の肉まんを実習で調理し、玉ねぎの皮を乾燥させておく。 2月：11月の実習時に出た玉ねぎの皮に各生徒宅で出た玉ねぎの皮を足して、煮出し汁を作り、染色実習を行った。限りあるいのちを丸ごといただくことについて実践的に学んだ。 ・『いろいろな人が着る衣服・これからの衣服』 1月 衣服におけるインクルーシブデザインの例として車いす乗用時も着用しやすいレインコートや、ユニバーサルデザインの例として、マグネットで着脱できる運動靴、アクセシブルデザインの例として触覚用の衣服タグなど、様々な事例に触れライフステージの変化や身体的特徴等、様々な衣服のニーズについて考えを深めた。また、持続可能な衣生活に向けて、衣服の廃棄の現状について学び、長く着用するための修繕技術の習得に向けてふきん製作を通した基礎縫い実習の実践、フェアトレード といったしくみや、環境への負荷を考慮する、生産者からの搾取をしないといった エシカルファッションの観点から、どのように衣服を購入するか考えを深めた。	・実教「Agenda家庭基礎」
8 神奈川県	高 2	情報・家庭	子育てしやすい街について調べる	少子化の進行が止まらない中、依然として命を生み育てるという、生き物としての人の営みは軽視される傾向にある。スマートで効率的な社会が進む一方で、様々な子育て支援策が作られているが、どうしたら人に優しい、命を育むことに優しい社会ができるのか。自治体の事例などを調べ、高校生として今できることを考えるきっかけとした。	家庭総合教科書、自治体のホームページ等
9 神奈川県	高 1	情報・家庭	次世代をはぐくむ	命をつなぐことについて、次世代に生命を引き継ぐだけでなく、豊かな人間性や社会的責任を育むことの重要性を理解させた。家庭や学校での教育を通じて、思いやりや責任感を育てることの重要性について具体例を交えて教えた。例えば、他者を思いやる心や社会貢献の精神を育むこと、自分の行動に責任を持つこと、家庭内のルールを守り家事を分担することで、責任感や自立心を育てることを実践させた。また、命の責任として自己管理や他者への配慮、環境保護が求められることを強調し、生徒に理解させた。	教科書

10	神奈川県	高 1	情報・家庭	高齢化社会を支える	高齢化社会において、高齢者が安心して暮らせるようにするための社会のしくみについて、生徒に分かりやすく説明した。介護保険制度や地域包括ケアシステムの重要性を具体的に教え、生徒に理解させた。介護保険制度は、介護が必要な高齢者に対して介護サービスを提供する制度であり、地域包括ケアシステムは医療、介護、予防、生活支援、住まいの5つの要素が連携し、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を続けられるよう支援するシステムであることを説明した。また、健康管理や社会参加、経済的支援の重要性を強調し、生徒に理解させた。	教科書
11	神奈川県	高 1	情報・家庭	「認知症」について知る	「家庭基礎」の「高齢者の自立を支える。高齢者と共に地域をつくる」という単元における「認知症」の学習において外部講師を招き、「認知症サポーター養成講座」を実施した。専門知識を基に実践的かつ具体的な講義を受講することで、理解を深め、これからの超高齢社会に積極的に対応できる人材を育てた。	講師：茅ヶ崎市地域包括支援センターわかば職員 「認知症サポーター養成講座」受講者に認知症サポーターの証として「オレンジリング」を配布
12	神奈川県	高 2	情報・家庭	子ども・高齢者と関わる	家庭科の授業の中で、各ライフステージにおける健康課題を扱った。子どもの時期における不慮の事故事例から、子どもの命を守るために大人が気を付けるべき点や、高齢者がよりよく生きるために活用すべきサービスなどを伝えた。	教科書（実教出版）
13	神奈川県	高 1	情報・家庭	健康で安全な生活	食生活分野：“健康に食べる”ためにはどのように栄養を摂取するかについて学習した。 保育分野：子どもの健康な発育について、発達段階やかかわり方について学習した。 住生活：防災について学習した。 それぞれの分野で、プリント学習や実習、体験を行った。 実際に体験する中で、「いのちにかかわること」で何が困難なのか、どんな知識が役立つのか等、気づいたり考えたりすることができた。 高齢社会分野：高齢期の心身の変化やいきがいについて学習した。	東京書籍「家庭基礎 自立・共生・創造」 第一学習社「最新 生活ハンドブック」 プリント
14	神奈川県	高 2	情報・家庭	子どもの発達	子どもの特徴や発達についてDVDを通して学習した。	
15	神奈川県	高 2	情報・家庭	命を育む	性と生殖に関する正しい知識を学び、命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持てるよう図った。 乳児と関わったことがある生徒は非常に少なく、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について初めて知ったと反応する生徒が多数だった。 また、食生活の分野と関連させ、過度なダイエットや栄養の偏り、飲酒や周囲の喫煙による受動喫煙などは母子ともに悪影響であることを学んだ。自分自身だけでなく周囲への配慮も大切であると学んだうえで、今後自分たちがどのように行動できるか話し合った。	

16	神奈川県	高 1	情報・家庭	子どもの成長の特徴	家庭基礎「保育」の分野において、子どもの成長や発達を学習した。新生児として誕生した瞬間から持ち合わせている本能的な反応や原始反射について動画を見せ、なぜそのような力が備わっているかを考えさせた。新生児が自らの力で生きていこうとする姿に生命の尊さを感じさせることができた。	家庭科の教諭
17	神奈川県	高 1	情報・家庭	家庭基礎「生まれてくる命に対する行動」	保育分野の最初の授業で取り扱った。胎児の発育は、母体の状態による影響を受けやすい。そのため、様々な状況を設定し、マタニティマークを付けている妊婦さんを見かけた時にすべき行動について考えた。また、出生前診断のメリット・デメリットを班で話し合い、自分だったらどう思うかなど、今後生まれてくる命について考えた。	教科書資料集
18	神奈川県	高 2	情報・家庭	妊娠・出産	妊娠の成立から月齢に応じた母体の状況及び健康について。妊婦自身の健康管理についてはもちろんのこと、夫やパートナー等、周りの人の関わり方についての知識を身に付けるとともに、自分自身が妊娠をしたり、自分のパートナーや家族が妊娠をした際にどのようなことに気をつけていくかを考える学習を行った。	家庭科教員
19	神奈川県	複合学年	情報・家庭	住まいと子どもの危険	子どもの事故と安全について、家庭内のイラストから子どもにとって危険なところはどこか見つけ出し、事故やけがにつながるためにはどうすればよいのか考える。実際の家庭内事故の事例を伝え、子どもがいる世帯だけでなく、普段の生活の中でも危険から身を守るために自分たちにできることについて話し合う。	保育基礎担当教諭 教科書「保育基礎」（実教出版）
20	神奈川県	高 3	情報・家庭	職業労働（過労死）	家事労働と職業労働の中で、様々な雇用体制、働き方、ワークライフバランスなどについて学習した中で、過労死に関する新聞記事を読み、家族の思いや雇用者側の意見などを知ったうえで、自分の考えをまとめた。	教科担当（過労死の記事）
21	神奈川県	高 2	情報・家庭	命を育む	命に対する責任や社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康や新生児の能力、親になることはどういうことなのか等について、動画視聴及びワークシートへの記入を通して学ばせた。	NHK DVD教材「生命の誕生 2」 2 学年 家庭総合
22	神奈川県	高 2	情報・家庭	人工妊娠中絶	精子と卵子の特徴から妊娠の仕組みを理解した上で、自分たちの性行為がもたらす命に対する責任について考えさせる。	教科担当
23	神奈川県	高 1	情報・家庭	家庭基礎「次世代をはぐくむ」 「命のはじまり」	高 1 家庭基礎「保育領域」の導入として、子供を産み育てることの意味や命への責任、人工妊娠中絶、母体保護法などを考え理解する。また、妊娠から出産までの流れや出産後の母体の状況、マタニティブルー、性感染症、不妊に関する理解などを深め、生徒たちが命のつながり、命への責任を自分ごととして考えられるよう指導を工夫した。	教科書をベースに、担当教員の自作スライド教材を活用して指導を行った。多様な生徒がいる背景を考慮して慎重に指導内容を精選した。

24	神奈川県	高複合	情報・家庭	子どもと共に育つ	家庭基礎の保育分野にて、4人程度のグループに分かれディベートを行った。 題目は、「赤ちゃんポスト」・「出生前診断」の2つである。 2つの題目ともに賛否に分かれたが、両方の意見とも子どもの命を第一に考える意見であった。多様化する時代、子どもを取り巻く環境がますます変化しているが、どんな時代でも一番大切なのは、命であり、何よりもかけがえのない尊いものだということを、生徒一人ひとりが再認識することができた授業であった。	過去のニュースを使用
25	神奈川県	高 1	情報・家庭	児童虐待	児童の虐待死事件に関する新聞の記事を読み、虐待の原因や死亡に至るまでの経緯について分析し、予防策について話し合わせた。関連機関の取組みや法律について学び、虐待と疑われる状況に遭遇した時の対応や虐待が起こらないようにするためにはどのような社会を作っていくのかを考えさせた。	家庭科教諭 「家庭基礎」 (教科書) 「新聞記事」
26	神奈川県	高 2	情報・家庭	子供との関わりと保育・福祉	2年次「家庭総合・保育」の導入部として、テレビドラマ「コウノドリ」第1シーズン第1話を視聴。少女が未受診出産するストーリーで、生徒が出産や育児を「自分事」として考える契機をつくった。授業後の感想も反響が大きく、「生命を生み出す責任」や「誰かに頼る・相談することの重要性」を記載する者もあり、生命の尊さと福祉の大切さを考える授業となった。	○講師は本校職員 ○テレビドラマ「コウノドリ」
27	神奈川県	高 1	情報・家庭	共生社会	家庭基礎の授業内で手話に関する授業を実施。 単元のテーマとして「共生社会」を掲げており、その一環で毎年実施している。聴覚障害への理解や多様性、手話や指文字を健聴者でも活用することができる。といった指導内容。	本校家庭科教員による指導
28	神奈川県	高 1	情報・家庭	食生活 「食肉を食べるということ」	食事をする前に「いただきます」と言う。これは「“いのち”をいただきます」という意味も含まれており、日本固有の挨拶でもある。今回の授業では1冊の写真集を元に、1匹の牛が肉や太鼓になるまでの過程を説明し、わたしたちは誰かのいのちをいただくことによって、いのちを繋いでいるということを説明した。生徒の振り返りシートの中には「残さずきれいに食べることで、いのちに感謝をしたい」との記述も見受けられた。	・教科書 ・「うちは精肉店」 (著：本橋成一)
29	神奈川県	高複合	情報・家庭	保育基礎	「保育基礎」は子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を身につけ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てることを目指している。 学習内容は、子どもの発達の特性、発達過程、福祉と子育て支援、生活から保育に至るまで多岐にわたる。実際に近隣の幼稚園で実習に行っており、生徒は生き生きと活動している。 また、ドキュメンタリーの映像から妊娠、出産、育児、流産、死産、障害などをテーマに、生まれてきた意味や命の大切さ、人とのつながりについても考えた。	実施月は主に11月ではあるが、通年で行っている。

30	神奈川県	高 1	情報・家庭	乳幼児「子どもと共に育つ社会をつくる」	乳幼児の心身の発達について学習した。乳幼児や子どもを育てる責任は、保護者だけではなく社会全体にもあるということを理解した。新生児抱き人形を使用して、実際の大きさ・重さを体験しながら、安全な抱き方や生活に潜む危険について考えた。 自分自身も社会の一員として、子どもが育ちやすい・子育てしやすい社会とはどのような社会かについて考え、まとめた。	
31	神奈川県	高 2	情報・家庭	防災・減災	①東日本大震災、阪神淡路大震災、各地での土砂災害時の被害状況の動画を視聴した。 ②被災者アンケートから、課題を話し合った。 ③2次災害や災害を最小限にくい止めるためにどんな行動を心掛けるか話し合った。 ④被災時の食事について、ライフラインがstopした状況下において、健康を維持するためにどのような食材（備蓄）が必要で、どんな調理が考えられるか話し合った。 ⑤防災食を調理実習として実施、体験した。	NHK教育DVD、ポリ袋調理紹介動画などを利用
32	神奈川県	高 1	情報・家庭	家庭総合保育分野「生命の誕生」	実在の初産の女性をモデルに母体と胎児に起こる変化をCG映像を用いて解説した映像教材を活用し、生命が誕生することの素晴らしさや生命の大切さや、妊婦のために周囲の人ができる配慮等について考えさせる授業を実施した。	
33	神奈川県	高 1	情報・家庭	認知症サポーター養成講座	導入で高齢社会と高齢者の心身の変化を知り、グループでロールプレイ（寸劇）を通して高齢者と家族の気持ちを考え、DVD「認知症ってなんですか？」を視聴した。認知症は誰にでも起こりうる脳の病気で本人は大きな苦しみと悲しみを抱くことになり、サポートする家族にも多大な負担がかかりやすいことを学んだ。生徒は授業の中で様々な活動をきっかけに、認知症を正しく理解し、認知症になっても安心して暮らせる社会を目指し、傾聴や見守りなどの自分たちができる活動を自ら考えることができた。	・麻生区地域支援課 社会福祉職 ・かわさき記念病院 介護士 ・DVD「認知症ってなんですか？」